建協3支部と薩摩川内市議が意見交換

業界 採算性配慮の制度を

市議 「共存共栄」の視点で

諸問題について意見を交わす関係者
＝薩摩川内市のホテル太陽パレスで

県建設業協会の川内支部（廣瀬十士支部長）、甑島支部（純浦勝志支部長）、宮之城支部（白川田廣八支部長）の入来・祁答院地区の協会員と薩摩川内市議との意見交換会が28日、同市のホテル太陽パレスで開かれ、同市の入札制度の現状や見直し要望などについて議論を交わした。

今回の意見交換会には、各支部会員をはじめ青年部も含めて49人、市議会から岩下早人議長ら29人が出席。

協会を代表して廣瀬支部長が「業界が抱えている現状を認識していただきたい」と挨拶。また、岩下議長も「建設業は地域を支える基幹産業。本音で語り合いましょう」と言葉を寄せた。

入来・祁答院地区代表の田島賢一氏（㈱田島組社長）と川畑善照市議会副議長の進行で協議に入り、両事務局が提出資料を説明。協会側から入札の受注状況をはじめ、雇用や給与、保険の加入状況などアンケートの結果等について触れ、厳しい現状を訴えた。

意見交換では、協会側が5月下旬に薩摩川内市に要望書として提出した①土木工事500万円以上の事後公表②最低制限の見直し③災害復旧工事の地域性重視－を中心に協議。特に最低制限価格の引き上げについては、横須賀市の事例や経済状況を考慮して「暫定的・一時的で構わないから引き上げを」と訴える声が目立った。また、採算性や品質、技術力、安全対策を確保する観点から事後公表の導入も訴えた。

また、次代を担う青年部からは「若い人が建設業に魅力を感じなくなっている」などと指摘。石野田浩建設水道委員長が「業界も行政も市民。共存共栄していかなければ」と諭し、課題解決に向けて今後も協議していくことを申し合わせた。

出水市で電子入札・納品研修会

模擬体験で手順理解

出水電気工事協組

出水電気工事工業協同組合（岩崎孝和理事長）は27日、出水市の同組合研修室で電子入札・電子納品研修会を開催した。

写真管理などのポイントを学ぶ参加者＝出水市の出水電気工事工業

出水市の同組合員が参加。使い慣れたデジカメとノートパソコンを持ち寄り、電子入札のノウハウや県電子納品ガイドラインをベースにした成果品の作成方法などについて学んだ。

冒頭、岩崎理事長が「いまや電子入札や電子納品は当たり前で、その流れにわれわれ組合員もいけない。解説書や説明だけでは分からない点を実際に模擬体験し、今後に生かしてほしい」と挨拶した。

午前は、㈱インターウェーブの浅井健志CALS／ECインストラクターとアシストプランの新留正志氏が電子入札について解説し、電子入札によるパソコンの設定や指名・入札・開札など一連の流れを確認。午後からは、㈱現場サポートの前田剛取締役が「県電子納品ガイドライン（案）試行版」に基づいて、対応のポイントなどを解説した。

前田氏は、写真管理の重要性について触れ、「デジカメのシャッターを押した段階でデータが記録され、パソコンで加工した記録も残る。デジカメの初期設定や写真管理をしっかりと」と促した。

参加者は、パソコン画面を見ながら、お互いに各項目をチェックしたり、分からない点を講師に確認するなど、より完成度の高い電子成果品づくりに取り組んでいた。

土木設計技士検定試験

鹿児島会場 200人が挑戦

建設産業共同教育訓練協議会の主催による第1回目の土木設計技士の資格検定試験（鹿児島会場）が26日、鹿児島市の鹿児島大学農学部講義室で行われた。技術者のスペシャリストを目指し、200人が挑戦した＝写真＝。

この資格制度は、地元が担っている定型的な土木設計業務について、実務技術者を評価するもの。

試験は、午前の四股択一式問題（70問）で①建設行政等の知識②周辺業務の知識③土木一般に関する知識④土木設計業務に関する知識、午後は①土木設計業務に関する経験事例②具体的な業務を想定した土木設計の技術力を問う問題に記述式論文で解答する4問が出題された。

今回の検定試験を通して、若手技術者の技術向上と「品確法」が求める「品質な設計成果品を生み出すものと期待が寄せられている。

手軽で便利な
料のお支払いは
動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ

地域貢献活動

～ 渡辺組 ～

子供たちに役立てて

甑島の青少年育成に役立ててほしい－。

8月1日に創立59周年を迎える㈱渡辺組（渡辺紘起会長）は21日、創立記念日を前に薩摩川内市を訪れ、岩切秀雄市長に200万円の浄財を寄付した＝写真＝。

昭和47年から甑島の旧鹿島村と旧下甑村に対して毎年行っている寄付活動。市町村合併以降は同市に寄付を続けており、今回で38回目となる。

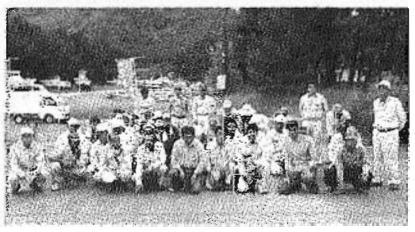
市長室で行われた贈呈式には、渡辺会長と坂中秀孝総務部長が出席。渡辺会長が「離島というハンディに負けないで勉学やスポーツに励んでもらいたい－という気持ちで寄付を始めた。甑島の子供たちに役立ててほしい」と浄財を手渡すと、岩切市長から感謝状が授与された。

岩切市長は「教育に対する熱意やご好意を背くことのないよう、青少年育成資金として甑島の子供たちのために役立てていきたい」とお礼を述べた。

同市によると、寄付金は9月補正予算に計上した上で充当先について協議。近年ではキャンプ用テントや図書券、手打小や鹿島小の校旗、海星中のピアノ購入に充てている。

～ 東串良建設同志会 ～

柏原海岸を美化



東串良建設同志会（西元勇会長）は20日、海の日にちなんだ毎年恒例の柏原海岸の清掃ボランティア活動を行った＝写真＝。

作業には会員18社から51人が参加。東串良町役場の関係者が「今年もたくさんの参加をいただき感謝します。住みよい町づくりに一体となって取り組んでいきましょう」と激励した。

西元会長から、熱中症対策などの注意事項が説明された後、参加者はそれぞれの場所で作業を開始。柏原海岸中央に位置する突堤から大崎側と柏原側に分かれ、約4時間にわたって清掃を実施、2tダンプ2台分のごみを回収した。

参加業者は次の通り。

吉留組　宮路建設　野村設備工業　高崎産業　グリーン開発　外西建業　鈴木製材　大隅リース　中央造園　吉田建設　吉川工務店　久保田建設　川田運送　大地　上野建設　立石電気水道設備　隆栄建設　立迫建設

～ 坊津町建友会 ～

クリーン作戦に協力

坊津町建友会（上村大一郎会長）は20日、南さつま市坊津町泊地区にある歴史資料館「輝津館」に近接する海岸周辺の清掃作業をボランティアで実施した＝写真＝。

7月20日の「海の日」にちなんで行われる恒例の環境美化活動。今回も「やまびこ会」と共同で取り組んだ。

実施個所は、同地区にある歴史の森の一角で、周辺には輝津館、沖合いには二つの剣がそびえ立つように見える「双剣石」が一望できるなど、観光名所としても知られる場所。

同日は、海岸に通じる管理者道や駐車場周辺、海岸周辺の清掃作業を中心に実施。約40人の参加者は、のこぎりや刈払い機などを使って沿道の伐採に取り組んだほか、海岸に漂着した流木やごみなどを回収、半日の作業で一帯は見違えるほどきれいになった。

参加業者は次の通り。

上村建設　広建設　鹿児島開発土木　谷上産業　さめしまハウジング　中崎造園　尾上工業　平瀬茅野産業